

校長室だより

No. 17

平成 29 年 9 月 1 日(金)

強く やさしく

六ツ美中部小学校校長

かとうよし かず
加藤嘉一

べんきょう・うんどう・ちゅうぶだいすきの力を伸ばすには
－ 2 学期を充実させるために－

2 週間ほど前に、学校でツクツクボウシの第一声を聞きました。「夏も終わり、もうすぐ子供たちのいるにぎやかな日常が学校に戻ってくる」とうれしくなりました。今日から 2 学期です。2 学期が一番気候がよく、勉強・運動もはかどる季節です。楽しみです。

わたしは、始業式の式辞で、この夏休みに聞いたちょっといい話を紹介することにしました。それは 8 月 18 日(金) 総合学習センターで開催された英語スピーチフェスティバルで、審査員をされていた大学の先生が、小学生向けに話してくれたことです。



【英語スピーチ代表 6 年小澤さんと川澄さん】

「みなさん、今回のスピーチは大変立派でした。きっとこのスピーチフェスティバルのために、たくさん練習してきたからだと思います。 ―〈略〉― これから、もっと英語が出来るようになりたいと思うかもしれませんね。でも、普段の生活では、英語を使う機会や時間が少ないので、なかなか上手になりませんね。では、これから英語の力をつけるようにするにはどうしたらいいかを、今から 3 つ話します。一つ目は、「英語がどこかで使われていないかを、いつも見つけようとするアンテナをもつこと」です。テレビから聞こえてくる言葉の中に英語が出てくるかもしれません。街で歩いているときに誰かが英語を使って話しているかもしれません。英語が書かれていることもあるでしょう。それらを「聞こう」「見よう」とするアンテナを持つことです。

二つ目は、「誰かに伝えたいなと思うことをもつということ」です。外国の人にもそう、日本人にもそう、こんなことを人に話したな、伝えたいなと思うことをたくさん作ることです。それは、自分の興味のあるものを調べてみたり、考えたり、進んでいろいろな体験をして、人に伝えたいなと思う自分の宝物を作ることです。

三つ目は、「自分で意識して、英語でいうとなんというのかなという時間をできるだけもつこと」です。少しの時間でもいいので、毎日それをすると英語ができるようになります。」

【英語スピーチフェスティバル 池田周先生の話の概要】

録音して記録起こしをしたわけではないので、正確に話された通りとは言えませんが、主旨はこのようなものでした。

これを聞いて、わたしは「これほどの勉強でも運動でも言えること」と思いました。そこで、この話を子供たちに紹介しながら、次のような話をするようになりました。

これは、実は、どの勉強も運動も同じだと校長先生は思いました。

例えば、算数でも『算数で学習したことが、どこかで使われていないかな』とアンテナを張ることや、『今日の授業はどんなことが問題かな』とアンテナを張ると、学習したことがよくわかりますね。

実は、校長先生は、今年の始めに同じような話をしました。「博士の目をもつこと」です。覚えていますか。この大学の先生はアンテナをもつと言いましたが、校長先生が話した「博士の目をもつこと」とよく似ています。

二つ目の「伝えたいことをもつこと」は、いろんな体験をしたり、ニュースを見たりしたら、自分の考えを作ることです。そして、それを日記に書くのもいいですし、先生達は掲示カードを用意したりしてくれていますね。自分からやる気にならないと伝えたいことも生まれません。

三つ目の「自分で意識して英語に変換してみる」と同じように、自分で苦手な運動のトレーニングをしたり、家で授業の予習や復習をする時間をもってみたりすると、できるようになるでしょ。やっぱりちょっとちょっとの努力をすると、いろんなことができるようになるようです。

2学期は、本当に頭も体も心もぐんと成長するときです。3つの視点を参考にしてがんばってほしいと思います。

先生たちもがんばります。でも、自分自身ががんばらないと伸びるものも伸びないのですね。みんなでがんばっていきましょう。

夏休みの暑い中でも 一校内の整備に汗をかく水谷校務員さんー

時々紹介しますが、本校の職員中で部活動指導・花壇整備などに、まけず劣らず汗を流していた職員がいます。それは、水谷校務員さん。水谷さんは、ずっとこの暑い夏の日でも、長袖・長ズボンの作業服を着て草刈作業をしていました。熱中症になってもおかしくない環境です。自己管理のしっかりした方です。北舎裏の通路も草が高く、右写真はその道を通れるようにしてくれていたところ。みなさんも8月26日（土）親子奉仕作業をありがとうございました。



【何度も草刈をする水谷さん】